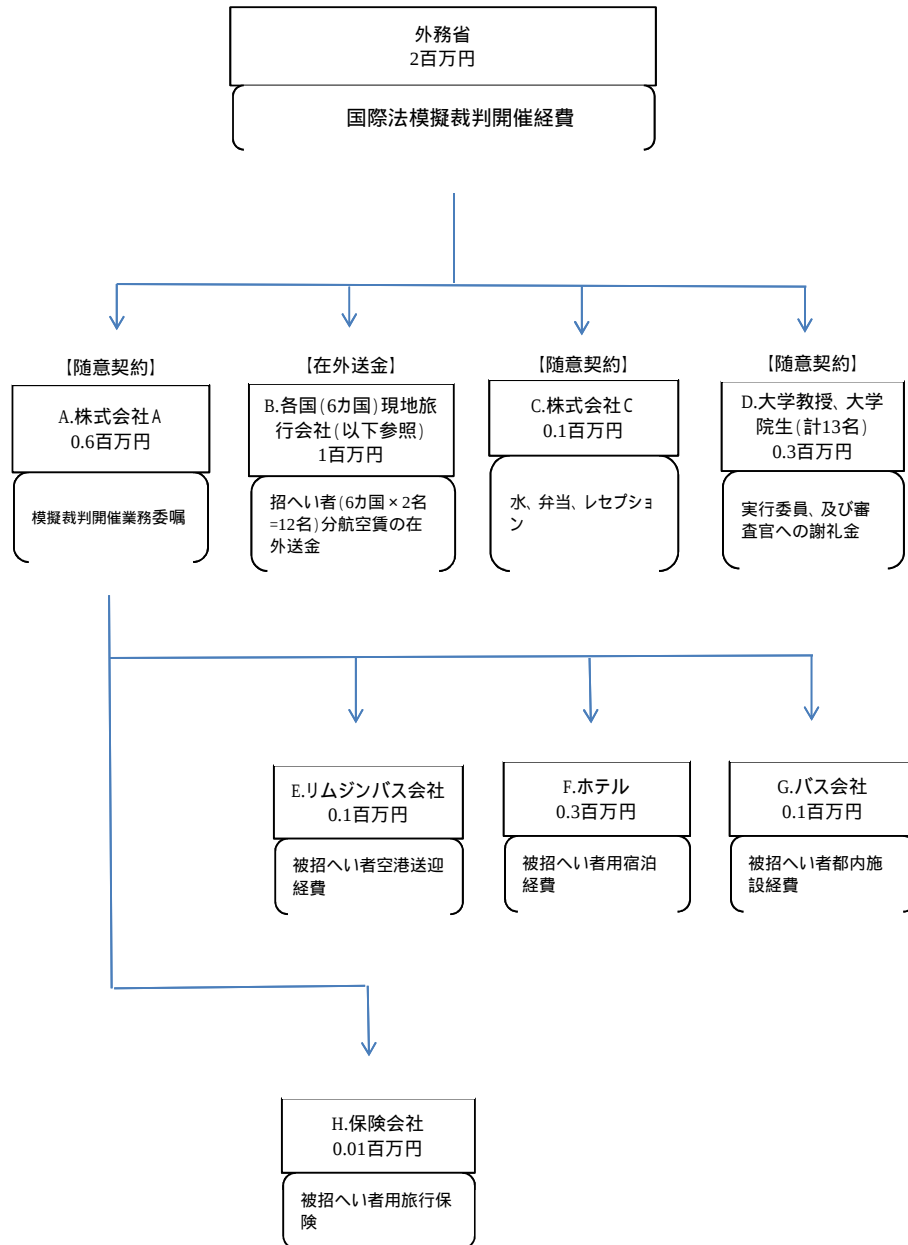


平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	国際人権人道法模擬裁判開催経費		担当部局	総合外交政策局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成15年度		担当課室	人権人道課		課長 阿部 康次		
会計区分	一般会計		施策名	- 国際の平和と安定に対する取組				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3項 外務省組織令第35条		関係する計画、通知等	-				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国際法模擬裁判「アジア・カップ」は、国際人権・人道法の解釈及び適用、英語での表現等の能力が必要とされる模擬裁判を通じて、海外の学生との交流促進、国際関係に関心を有する学生の能力向上支援を図るとともに、広く国際人権・人道法の知識の普及及び理解の増進等の啓発を行うことを目的としている。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	アジア諸国の大学から広く参加を募り、参加申請をしたチームの中から書面審査により選考を行い、成績優秀者を我が国に招聘する。日本チームについては、国内予選(国内模擬裁判である「ジャパン・カップ」)を利用し、英語による国内予選を行う。毎年8月初旬に開催。)により代表校を選出する(英語による書面陳述の提出を前提とする)。これらの海外・国内チームが2日間に亘る模擬裁判において口頭陳述(弁論)を行い、国際人権・人道法に関する知識及び理解、論理的な議論を行う能力等を競う。審査は、国際人権・人道法の専門家(大学教授、実務家等を予定)によって行い、書面陳述における得点もあわせ総合的に審査を行い、優勝チームを決定する。							
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託等 ☐ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	3	3	2	2	3	
		執行額	3	2	2			
	執行率(%)	97.2%	83.6%	94.8%				
	成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度
(成果目標)国際人権・人道法の啓発、理解の増進を行う。また参加者との人的ネットワークの構築を行う。 (成果実績)参加希望校数		成果実績	校	18	15	17	20	
		達成度	%	90%	75%	85%		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	国際人権人道法模擬裁判開催回数 (本模擬裁判は年1回の開催となるが、ICRC主催の国際人道法模擬裁判や米国での「シエラ」国際法模擬裁判等関連行事との情報交換や人材の共有を行うことで、本模擬裁判の質の向上を目指す。)		活動実績 (当初見込み)	開催回数	1	1	1	1
						(1)	(1)	
単位当たりコスト	2,236,099(円/回)		算出根拠	国際人権人道法模擬裁判開催に要した経費(2,236,099円)/回数(1回)				
平成23 (単位:千円) (単年度予算内訳)	費目		23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	招へい費		1,452	1,813	単価等を実績額に合わせ見直したため。			
	会議費等		270	376				
	謝礼		262	346				
計		1,984	2,535					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途、費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	本件開催経費については当省より直接支払うものと、会議運営業者に支払うものとに分かれる。会議運営業者に支払うものについては、精算時に領収書等の提出を求めることにより、支出先・使途を適切に行っている。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り		—	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
—			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロッ
 クごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社A	模擬裁判開催業務委嘱	0.6		
2					

B

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	旅行会社(ネパール)	招へい者航空券手配	0.3		
2	旅行会社(インドネシア)	招へい者航空券手配	0.2		
3	旅行会社(ベトナム)	招へい者航空券手配	0.2		
4	旅行会社(中国)	招へい者航空券手配	0.2		
5	旅行会社(シンガポール)	招へい者航空券手配	0.1		
6	旅行会社(フィリピン)	招へい者航空券手配	0.1		
7					

D

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	大学教授A	実行委員長	0.1		
2	大学院生A	実行委員長補佐	0.02		
3	大学院生B	実行委員長補佐	0.02		
4	大学教授B	実行委員	0.01		
5	大学教授C	実行委員	0.01		
6	大学教授D	実行委員	0.01		
7	大学教授E	実行委員	0.01		
8	大学教授F	実行委員	0.01		
9	大学教授G	審査官	0.01		
10	大学教授H	審査官	0.01		

E

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	リムジンバス会社	被招へい者接遇業務	0.1		
2					

F

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ホテル	被招へい者接遇業務	0.3		
2					

G

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	バス会社	被招へい者接遇業務	0.1		
2					

H

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	保険会社	被招へい者接遇業務	0.01		
2					